
令和6年度予算編成について

昨日、「令和6年度予算編成方針」を各部局長に通知し、新年度当初予算編成作業を本格的に開始した。

1 予算編成の基本的な考え方

- 市民生活等に大きな影響を与えてきたコロナ禍による制約等が次第に緩和され、全国的に社会・経済活動が活発化してきている今、**「持続可能な未来都市高岡」の実現に向けた動きを更に加速させる**ときである。そのためには、高岡で生まれ育った人々が未来の高岡を創り次の担い手も育成していくヒトの循環、資源やエネルギーを再生するサイクルを通じ持続的な地域の成長を目指していくモノの循環、一つの挑戦を起点に相乗効果を生み出しながら次々と挑戦が連鎖しつながっていくコトの循環等により、地域の新たな活力を創出し付加価値を生み出していく、**「循環」を強く意識したまちづくりを推進していくことが重要**である。これまで、市民とともに未来につながる挑戦を拓き、加速させてきたことで、**「循環」を生み出すための基礎が形成されており、この次なる展開として、令和6年度は、市民とともに高岡ならではの「循環」を始動させていく。**

- 高岡の**「循環」の中心には、地域の宝であるこどもたちの存在**がある。国においては、急速に進む少子化・人口減少に歯止めをかけ、トレンドを反転させるため、今後3年間を集中取組期間とする「こども・子育て加速化プラン」の実行により、「こどもまんなか社会」の実現を目指しているところである。本市においても、これまで、子ども・子育て施策等を積極的に展開してきたところであるが、こどもを生み育てやすいまちとして、今を生きるこどもたちのみならず、次の世代、そしてその次の世代のこどもたちが夢や希望を持てるまちへと進化させていく。こどもたちが健やかに成長できる幸せな社会、**こどもたちに繋ぐ20年、30年後の誇れる高岡の姿を念頭に、全事業において検討を行い、未来を見据えた投資施策の積極的な展開**を図っていく。

- 私たち高岡市役所は、次の時代、新しい時代の高岡を市民の皆様とともに創っていくためにも、一番身近な行政として、著しい物価高などにも的確に対応しながら、現在そして未来で活躍する市民とともに、全ての市民が安全で安心な生活を送ることができる環境を堅実に整えていく。また、**より多くの市民が新たな挑戦の一步を踏み出し、地域全体の課題解決へとつながる大きな「循環」を生み出せるように後押しを全力で続けていく。**

2 令和6年度予算編成のポイント

昨今の著しい物価高により、本市の全ての事業・業務における経費の増加が見込まれる一方で、一般財源は現在の水準を超えないと見込まれることから、引き続き、行財政改革に取り組みつつ、高岡の未来を見据え、「循環」を生み出すための予算を編成する。

具体的には、持続可能な行政サービスの提供に向け、選択と集中の徹底、公債費負担の軽減を図ることで財政均衡を保ちながら、新たな財源の確保や官民連携の推進により、社会情勢の変化に伴う行政需要にも柔軟に対応できる財政構造を確立する。

あわせて、地方財政を取り巻く環境が不透明な中、市民サービスの維持・向上を図るためには、事業の費用対効果を高めることが重要であり、既存事業の再構築などスクラップアンドビルドを前提とし、挑戦する取り組みを推進する。

◆ 予算要求特別枠「高岡を前へ進める事業」枠の設定

「持続可能な未来都市 高岡」の実現に向けた動きを更に加速させるため、スクラップアンドビルド及び事業の目標や終期の明確化を前提とし、次の視点や手法による重点的な検討を求めたうえで、(a)～(e)の事業について提案を募る。

なお、特別枠事業の財源については、歳入確保も含めた事業改善・見直しにより捻出することを原則とする。

- (a) 高岡の未来を担うこどもたちをまんやかに据えた全方位型の事業
- (b) 市民の挑戦を後押しし、更なる挑戦への連鎖・循環を生む事業
- (c) カーボンニュートラルの実現に向けた事業
- (d) DX推進のため、デジタル技術を活用した事業の構築や事業手法の転換
- (e) 北陸新幹線敦賀開業による経済効果を創出・拡大させる事業

<重点的な検討を求める視点及び手法>

●視点

- ・人、資源・エネルギー、挑戦の相乗効果等「循環」の実現に向けた取り組み
- ・「高岡を前へ進める具体策のロードマップ」に掲げる施策の推進
- ・部局横断等による事業の再構築
- ・パートナーシップ連携（官民連携・地域共創等）による課題解決
- ・DXによる市民サービスの向上（「どこでも市役所」の充実等） など

●手法

- ・費用対効果の高い事業への選択と集中
- ・業務の標準化や省力化
- ・新たな歳入確保策の検討 など

◆ 予算要求及び査定のポイント

現場を知る各部局の全ての職員が主体的に予算編成に取り組み、現場目線で創意工夫し、選択と集中を推し進めるため、要求及び査定時に各事業の内容や手法の再確認を実施する。生み出された財源については、特別枠の査定等において当該部局に優先的に配分する。

義務的経費と投資的経費を除く経費の要求については、一般財源ベースで令和5年度予算と同水準とする。

[参考：予算編成日程]

10月3日(火)	予算編成方針記者発表
11月上旬	予算要求書の提出
1月中旬～1月下旬	市長査定
2月中旬	予算(案)の発表